

第53回富山県総合雪対策推進会議 議事概要

- 1 日 時 令和6年11月12日（火）10:00～11:45
- 2 場 所 富山県防災危機管理センター 5階会議室
- 3 出席者
(委員) 庵会長、島田委員、高柳委員、北岡委員、北村委員（代理）、田中委員、富樫委員、大坪委員、佐伯委員、中村委員、府金委員、石原委員（代理）、伍嶋委員、森島委員（代理）、村椿委員（代理）、笹島委員（代理）、野口委員 計17名
(事務局) 竹内生活環境文化部長、武隈危機管理局長、金谷土木部長、関係課長
- 4 主な議事
今冬の気象予測について (富山地方気象台)
令和5年度富山県総合雪対策の実績について (県民生活課)
令和6年度富山県総合雪対策実施計画（案）について (県民生活課)
災害級の大雪時におけるタイムラインについて (防災・危機管理課)
令和6年度富山県道路除雪計画について (道路課)
- 5 議事概要（委員から出された主な意見）
 - 鉄道事業者として、積雪情報等を日々監視し、大雪が予想される際には、気象台からの発表や警報等の情報から降雪量を予測し、除雪計画を立てている。また、その情報について、タイムラインにあるように雪の影響等については前々日から、翌日の運行計画については前日昼過ぎまでには広報発表やホームページでお知らせする。特に朝夕の通勤時間に対する情報はできるだけ早く発表していきたい。日中除雪が発生し、昼の列車に運休が出ることもあるかと思うが、皆様のご理解とご協力をお願いしたい。
 - 鉄道事業者として、安全運行を最優先にしながらも、できる限り、県民の皆様の移動の足をダイヤどおり確保していきたいと考えており、弾力的な除雪ができる高性能除雪車両を導入して適切に除雪を行うことや、駅構内等について融雪装置等を準備するなど、遺漏のないよう取り組んでいく。
タイムラインに基づき、気象情報の適切かつ迅速な把握に努め、運行計画を検討する。大雪が続く警報等に発展しそうな場合には、計画運休も含めて検討し、運休後の運行再開については、できるだけ早く県民の皆様に伝えていきたい。情報提供は、できるだけ前日昼過ぎ又は夕方までに行い、通勤通学利用者に対してしっかりと告知していく。情報提供は当社ホームページやSNS等を積極的に活用し、県民の皆様がしっかり情報を把握できるよう取り組んでいく。大雪への対応は関係機関が密接に連携することが大事であり、情報の連携や行動の共有を積極的に行い、大雪時でも安全運行できるよう取り組んでいく。
 - 日々の気象予測に基づき、雪氷体制を判断し、それぞれの気象状況によって、散布や除雪を考えてく。大雪等が予想される場合は、特に人命を最優先に大規模な車両滞留が発生しないよう、関係機関と連携して実施していく。特に短期的、集中的な降雪が予測される場合は、

タイムラインに基づき、3日前から順次広報を行い、外出自粛を呼びかけるとともに、大雪に対する除雪体制の強化も含めて対応していきたい。また、この情報はホームページやSNS等を利用してお知らせしていく。

- 能登半島地震の影響が道路や色々な所で残っており、複合災害というものがまだ続いているのではないかと。道路の通行は可能だが、段差や起伏等、地震の影響が残る箇所が恐らくあると思われ、そこに雪が降ると、除雪は難しくなり時間もかかる。運転に気をつけなければいけないため、ドライバーに対して、しっかりと備えてもらえるよう注意喚起する情報発信をしていただきたい。
- 複合災害という観点で、倒木に備えて伐採を行うことはすばらしい取り組みだが、道路沿いから少し入るとなかなか伐採が難しい所もあるため、大雪時には倒木や電線着雪により停電が発生する恐れがある。比較的広域停電となる場合もあり、暖房等、停電に対する備えについて注意喚起する情報発信をしていただきたい。
- 日頃から県民や観光客等の生命と財産を守るため地域防災支援を強化しているところ。今年度、大雨に関する気象情報の説明を何度か行ったが、大雪に関しても説明することになるかと思う。また、早期注意情報として警報級の可能性がある場合は、5日先までの予想ということで、土日休日前に防災担当の方々に色々と情報提供している。今後も地域防災支援ということで頑張っていきたい。
- 昔の大雪では、北陸全体で降る感じであったが、最近は県の中央部分だけなど、局所的、集中的な降り方をするのが特徴となっており、広域での除雪の応援体制について計画をしておいた方がよいのではないかと。
- 雪が降ってから買い出しに行ったのでは遅いため、冬の前に備蓄品を用意しておきましょうというような呼びかけが必要ではないかと。
- WEBカメラが多く増設されたことで、行先の雪の状況がある程度わかるようになった。路面状況等を見ながら、出かけるかどうかの判断を各県民にさせていただけるよう、そういったWEB情報などの情報発信をぜひ進めていっていただきたい。
- コンパクトシティの次に、ウォークアブルシティとか、自転車だとかアクティブな交通を見直すというのが今世界的に取り組まれている。実際に道路空間の再編ということが少しずつ始まっており、自転車や車椅子だとか、色々なモビリティが入ってきている。今すぐにといいことではないが、街の中、歩行者が多いエリアで、自転車道等の除雪の順位だとか、雪の時には自転車に乗るなということ、富山では普通だと聞いているが、改めてこの考え方を改めて、そういったところをきちんと整備していくことで、逆に歩行者や自転車が雪の時でも出歩けるようになる世界が待っているところがあるので、長い目で見て少しずつ検討していただけたらと思う。もちろん全部ではなく、優先順位は道によって違うけれども、

道路空間の再編というのは、空間そのものはあるのだけれども、使い方を変えるというところで、除雪というのもすごく関連してくると思うので、検討していただけたらと思う。

- 雪が降っていない時の除雪のために空けてある道路の空間（堆雪帯）を、できれば除雪における県民との協力によって除排雪を実施されている団体や、雪のときに頑張っている団体、コミュニティーの方々に使ってもらうような取り組み等をやっていただけると、非常に全国に先駆けた先進的な取り組みになるのではないかと思います。
- 大雪の恐れがある場合、学校の登校しない判断をなるべく前日にしていただきたい。特に高校は、公共交通機関で通学している生徒が多く、公共交通機関が運行するかわからない状態で保護者が送迎するというケースも多く、リモート授業に切り替えるなど、判断していただきたい。
- 能登半島地震で応急危険度判定に参加したが、本当に雪が降ってなくてよかったというのが実感。地震と大雪の複合災害になると、さらに被害が甚大になると思うので、大きなスパンで既存住宅の耐震診断、耐震改修も進めていただきたい。また、耐震診断、耐震改修について、県で大きく宣伝しているが、雪対策にもなるという点についても広報していただければよいのではないかと。
- 気象台や交通機関の委員から情報発信に自社のホームページ、SNSを活用して、なるべく多くの人と情報共有したいとのことであったが、その際には、ぜひラジオの活用もご検討いただきたい。総務省調査によると、車でラジオを聞く人の割合は、調査対象の半数以上55%ということであり、多くの方が車を運転しながら、ラジオを何となく意識もせず聞いている。
- 昨年は雪が少なかったが、学校から雪の心配がある時に、すごく早い情報伝達があり、関係機関の協力体制が整い、早い体制になってきているのかなと実感していた。ただ、せっかくの情報がまだバラバラになっている部分もあるのかなということで、本当に欲しいときに素早く、情報を取り出せる方法が簡単にわかればよい。
- 除雪機械のワンオペレーター化について、通学時間帯と重なることはほとんどないと思うが、普通乗用車であっても見逃されてしまうような小さな子供もおり、事故が決して起こらないよう、安全に関する講習会等をきちんと実施していただきたい。
- 地震や大雨の被害等、すごく悲しい出来事が起こっており、自分達の子供は自分達で守らなければいけないという保護者の防災への意識がすごく高まっているタイミングである。例えば、防災士の取得など防災に関する取り組みについて、保護者へのタイミング良い情報提供があれば、お互いに協力していけると思う。
- 子供は本当に雪が大好きで、雪が降るとウキウキして出かけるけれども、大人になると雪はウンザリになってしまうのはすごくもったいない。大人になっても雪が大好きと言えるよう、

まず、安全面を確保して、みんなが雪に親しんでいける県になっていければよい。

- 県地域防災計画雪害編に冬期防災訓練があり、総合雪対策実施計画（案）でも「雪災害への対応」に「地域防災の体制づくり」などが書かれている。地域での防災訓練は防災の日周辺に行くことが多いが、雪が降ったときの協力体制についても呼びかけていただきたい。火災との複合災害もあるため、消火栓周りの除雪を地域の方でも意識してやっていただくことや、融雪の稼働時期は井戸水がなくなりやすく、大雪時は長引くこともあり、給水等の防災訓練も必要になってくると思う。地域防災計画とこの総合雪対策計画の連携をより強化できるよう県民や防災士の方に呼びかけていただきたい。
- より安心して除雪オペレーターの方々が仕事をできるよう、雪で埋もれているガードレールや民間の家の物を破損してしまった時の補償というのは、どこでされることになっているのか。その辺りも安心した除雪体制にしていけると良い。
- 冬場、高齢の方を迎えに行く際、運転するスタッフが事前に対策をとれるため、色々な情報をスピーディーに出してもらえることは本当にありがたい。また、訪問先のお宅へ車で行っても、車を置く場所がない、そこまで行けないということがあったが、自治体や隣近所の方に、駐車場をお借りするというのが、ここ何年か、やっと浸透してきたところであり、ありがたいと感じている。
- 高齢の方の送迎時、道路管理者の区切りなどによって、行けるところ、行きづらいところがあり、そういったところで連携をとっていただければありがたい。また、雪が固まった時に凸凹になっているところがあるが、お年寄りを乗せて運転するスタッフについては、そこでケガをしてもらって困るところがあり、そういうところも、大変なところだとは思いますが、少し気をつけて除雪をお願いしたい。
- 道路が狭い所については、自治体の方やご近所の方をお願いしなければいけない部分になると思うが、どうしてもそこまで車が行けず歩いていかなければいけないという事態が今でもやはりあるので、皆さんのご協力が必要ではないかなと感じている。
- 「雪を生かし雪に親しむ利雪、親雪」の冬期のインドア・アウトドアスポーツの普及に努めるという中で、小中学校のスキー実習の取り組みを、ぜひ学校単位で進めていただきたい。雪が降ると子供たちもなかなか外に出ず、家にこもりがちで、富山県にいるのにスキーを知らない、したことがないという子供もいる。
- 雪に親しむためのイベントや講演会など、啓蒙活動に取り組んでいただきたい。
- 災害時には小・中学校の体育館が避難場所になる。避難された方々の声を聞くと避難で一番大事なことは、水と食べ物と情報だと特に強く言われたため、避難住民の皆さんに的確に素早く情報提供できるよう、テレビを体育館に設置しようとしたところ、NHK受信料の支払い

が必要となった。いつ起きるかわからない災害に対して、各町内会で受信料を支払うのは体力的にも難しく、何かよい知恵がないか行政でも考えていただきたい。

- 自治振興会として、色々と助力を求めている人々への声かけ運動などを中心にして、大雪に限らず色々な災害に対応していきたい。子供たちの通学路の確保、ゴミステーションの除雪、町内会単位で排雪、除雪するときの排雪場所の確保などについて、いろいろと知恵を出していきたい。
- 市町村としては、タイムラインにあるとおり、県と同様に関係機関と連携しながら、情報収集、発信をきちんとしていく。ただ、市町村の場合は、小・中学校、幼稚園、保育所、こういうところの対応について、本当にきちんと情報収集した上でやっていかなければいけない。学校やゴミ収集など、市町村ならではのところの対応をどうするかということをきちんとやっていく必要がある。
- 除雪のワンオペレーター化について、市町村でも除雪従事者の人手不足は本当に深刻な状況であり、効果が出るようであれば、県管理道路だけでなく、業界全体にこの動きを広めていただきたい。
- 各市町村とも後継者不足、重機の老朽化など、いろいろ厳しい状況であるが、町では何とか昨年度並みの除雪体制を確保できたところであり、12月1日には除雪対策本部を立ち上げて万全の体制をとっていきたい。委員の皆さんからゴミステーションや雪捨て場などの話があったが、行政として、そういった部分を気にしながら対応に当たっていきたい。